令和8年度
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書
＝令和7年度事業分＝



令和8年8月
上川町教育委員会

目　　次

1、点検及び評価の趣旨 …… 2

2、点検及び評価の対象 …… 2

3、点検及び評価の方法

（1） 点検及び評価の視点 …… 2

（2） 学識経験者の知見の活用 …… 2

4、点検及び評価の結果

（1） 教育委員会の活動状況 …… 3

（2） 主要施策、事業等の実施状況及び評価 …… 6

5、学識経験者の意見

（1） 教育委員会の活動状況 …… 14

（2） 学校教育 …… 14

（3） 社会教育 …… 15

（4） 総合評価 …… 15

1、点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され(平成20年4月1日施行)、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することになりました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

2、点検及び評価の対象

令和7年度の教育委員会の活動状況のほか、学校教育及び社会教育において実施した施策・事務事業等を点検及び評価の対象としております。

3、点検及び評価の方法

(1)点検及び評価の視点

教育委員会会議の開催状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、施策・事務事業等については、妥当性、成果等の観点から実施状況を点検し、今後の取組の方向性を明らかにしています。

(2)学識経験者の知見の活用

教育委員会が行った教育委員会の活動状況や施策・事務事業等の実施状況についての点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検評価に関する意見や助言をいただきました。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)
第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

4、点検及び評価の結果

（1）教育委員会の活動状況

① 構成

（令和8年3月31日現在）

職　　名	氏　　名	委員初任年月日	任　　期
教　育　長	館　山　孝　佳	R　4.　4.　26	R　7.　4.　26　～　R 10.　4.　25
職務代理（R4.10.1から）	谷　越　一　仁	R　2.　10.　1	R　6.　10.　1　～　R 10.　9.　30
委　員	桜　田　紀　子	H 29.　10.　1	R　7.　10.　1　～　R 11.　9.　30
委　員	伊　藤　聖　健	R　4.　10.　1	R　4.　10.　1　～　R　8.　9.　30
委　員	清野　友紀子	R　5.　10.　1	R　5.　10.　1　～　R　9.　9.　30

② 会議の状況

令和7年度は、次のとおり会議が開催されました。

それぞれの会議においては、委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会規則等の制定・改正など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けています。

	開催月日	件名	
1	7.　4. 28	議案	・上川町教育支援委員会委員の委嘱について
			・上川町学校運営協議会委員の委嘱について
			・上川高等学校教育振興対策協議会委員の委嘱について
			・上川町生徒指導推進協議会委員の委嘱について
			・上川町立給食センター審議会委員の委嘱について
			・上川町社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について
			・上川町スポーツ指導員の委嘱について
			・上川町スポーツ推進委員の委嘱について
			・上川町立小中学校施設開放事業管理指導員の委嘱について
			・令和7年度特別支援教育就学奨励費支弁区分の認定について
			・令和7年度準要保護児童生徒の認定について
		協議案	・令和7年度上川町総合教育会議の開催について
			・令和7年度上川町教育委員会の学校訪問について
		報告	・令和7年度主任等の命課状況について
			・令和6年度社会教育施設の利用状況について

2	7．　8．26	議案	・令和6年度上川町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価について ・令和7年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について ・上川町外国青年就業規則の一部を改正する規則について ・上川町社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について
3	7．10．30	議案 協議案	・上川町学校運営協議会委員の委嘱について ・令和7年度第2回上川町教育委員会学校訪問について ・上川町認定こども園運営協議会委員の推薦について
4	7．11．20	協議案 報告 追加議案	・上川町学園構想ビジョン（素案）について ・令和8年度上川町教育予算要求の概算について ・令和8年上川町はたちのつどいについて ・上川町スポーツ指導員の委嘱について ・令和7年度特別支援教育就学奨励費思弁区分の認定について
5	8．　1．27	議案	・上川町学園構想ビジョンについて ・令和7年度上川町総合教育会議の開催について
6	8．　2．19	議案	・令和8年度教育費予算について ・令和7年度上川町教育奨励顕彰について ・令和8年度上川町立学校職員の内申について
7	8．　2．27	議案 追加協議案	・上川町立給食センター設置条例施行規則の一部を改正する規則について ・上川町公民館図書室管理運営規程の一部を改正する規程について ・令和8年度上川町教育行政執行方針について ・令和8年度上川町立学校職員の内申について（教頭・一般教諭） ・上川町社会福祉審議会委員の推薦について
8	8．　3．13	議案	・令和8年度準要保護児童生徒の認定について ・令和8年度上川町教育委員会事務局職員の任免について

③ 学校訪問の実施

実施月日	訪問学校	内容	出席者
7．6．13	上川小学校 上川中学校	授業参観、学校経営状況ほか (給食試食)	教育長と委員4名
7．12．9	上川小学校 上川中学校	授業参観、学校経営状況ほか (給食試食)	教育長と委員4名

④ 研修会等への参加状況

開催月日	内容	場所	出席者
7． 4．24	上川管内教育委員会連合会総会・研修会	旭川市	教育長と委員4名
7． 7．17	第60回北海道市町村教育委員会研修会	札幌市	教育長と委員2名
7．10．21	上川管内教育委員研修会	旭川市	教育長と委員2名
8． 2．27	総合教育会議	上川町	教育長と委員3名

⑤ その他行事等への出席状況

開催月日	行事名等	場所	出席者
7． 4． 3	教職員辞令交付式	かみんぐホール	教育長と委員1名
7． 4． 7	上川小学校入学式	上川小学校	教育長と委員4名
7． 4． 7	上川中学校入学式	上川中学校	教育長と委員3名
7． 4． 8	上川高等学校入学式	上川高等学校	教育長と委員4名
7． 4．23	白寿大学開講式	かみんぐホール	教育長
7． 5．23	上川中学校体育祭	上川中学校	教育長と委員1名
7． 6． 7	上川小学校運動会	上川小学校	教育長と委員3名
7． 9．12	上川中学校学校祭	上川中学校	教育長と委員1名
7．10．11	上川小学校学芸会	上川小学校	教育長と委員4名
7．11．15	児童・生徒主張のつどい	かみんぐホール	教育長
8． 1．10	上川町はたちのつどい	かみんぐホール	教育長と委員2名
8． 3． 1	上川高等学校卒業式	上川高等学校	教育長と委員2名
8． 3．10	上川中学校卒業式	上川中学校	教育長と委員3名
8． 3．19	上川小学校卒業式	上川小学校	教育長と委員2名

(2)主要施策、事業等の実施状況及び評価

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
学-1	外国語指導助手等招致事業	上川町における外国語教育の充実を図る	決算額　10,327,310円 月：上川小学校・上川高校 火：上川小学校・上川中学校 水：上川小学校・上川中学校 木：認定こども園 上川小学校・上川中学校 金：上川小学校・上川中学校 ※中・高校マシュー先生、小学校ガブリエル先生(～7月) リー先生 (8月～) 担当	幼少期からALTとふれあうことが国際理解を深めることとなり、生の英語に触れることで外国語を学ぶ意欲の向上につながっている。 小学校学習指導要領において、3･4年で35時間、5･6学年での70時間の授業時間数が定められており、平成30年度からALTの2人体制をとっている。国際交流の推進、外国語教育のさらなる充実を図る必要から事業継続とする。
学-2	教職員住宅整備事業	小中学校教職員の住宅整備を図る	決算額　397,694円 今年度事業の主なものは、栄町教員住宅のストーブ取替修繕、旭町教員住宅畳表替など	住宅環境の確保は、教職員の福利厚生事業の一環及び地域の教育推進上不可欠であり、事業継続とする。
学-3	部活動通学費事業	スクールバス利用生徒で部活動により下校時等に他の交通機関を利用せざるを得ない家庭への保護者負担軽減を図る	決算額　17,677円 該当生徒2人 部活動生徒に対する通学費補助金交付要綱により公共交通機関の2/3、自家用車燃料代相当分 (5km/ℓで算出)	生徒数減少に伴い活動が困難な部が存在する中、部活動の円滑な活動のためにも効果ある事業であるとともに、部活動生徒の保護者負担軽減が図られている。 越路、東雲、層雲峡から通学する部活動生徒がいない場合は事業休止とする。
学-4	教職員研修･研究活動事業	教職員の資質能力の向上を図る	決算額　761,268円 上川町教育研究会交付金事業 令和7年度は中学校教諭2人、教育委員会職員1人により道外先進地視察研修 (石川県加賀市) を行っている。	児童生徒一人一人の良さに注目し、それを発揮しようとする意欲を育てることが極めて重要であり、教員の研修･研究の充実が必要である。 また、道外先進地視察研修を実施し、さらなる研鑽を図ってきた。 本事業を通じて、教職員の資質･指導力の向上が図られ、児童生徒の学力向上につながることが期待されることから事業継続とする。ただし、道外先進地視察研修については教職員の負担増大などから見直しとする。
学-5	生徒指導推進協議会事業	児童生徒の健全育成のための地域環境の整備推進	決算額　103,360円 校外生活のしおり発行、児童生徒の安全対策 (携帯用防犯ブザーの配布)、標語募集・作成、こども110番のぼり設置	児童生徒の安全確保及び交通安全･公共マナーの意識の高揚が図られている。 町内各学校が連携を図り、関係機関の協力を得て実践的な活動を推進するため、今後も事業継続とする。
学-6	部活動推進事業	学校教育活動の一環としての部活動の推進を図る	決算額　1,283,400円 ○交付金 7月　北海道中学校陸上競技大会 8月　国民スポーツ陸上競技大会北海道選手選考会 8月　北海道ジュニア陸上競技選手権大会 ○部活動の地域展開 部活動指導員　1人委嘱 (野球部)	生徒に広く実践の機会を与え、技能の向上を図り、心身ともに健康な生徒の育成が図られている。 また、部活動指導について、地域人材を活用し、一部部活動の地域展開を図ってきた。 今後も事業継続とする。
学-7	総合的学習等事業	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質能力を育てる	決算額　436,084円 上小　植物の栽培、施設見学 上中　スキル学習、地域学習、進路啓発学習、宿泊体験学習	体験学習等を通じて、自ら考えて行動に繋げる取組を展開できた。 自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を高める総合的な学習を充実させるために必要な事業であり、事業継続とする。

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
学-8	姉妹友好交流(カナダ訪問)事業	カナダアルバータ州ロッキーマウンテンハウス町との姉妹提携に伴い、両町の中学生の相互交流により生徒の豊かな感性と国際感覚を育むとともに、両町の友好親善に寄与する	決算額　6,211,710円 中学生カナダ訪問（生徒9人 引率者2人） 8月5日～8月13日 ※令和6年度より事業再開	上川中学校の生徒とロッキーマウンテンハウス町の中学生との有意義な交流を行うことができた。 国際化がますます進展する中で、国際社会の一員であるという視野を持ち、相互交流し理解し合い異文化を知ることは重要なことであり、事業継続とする。
学-9	就学援助(奨励)事業	経済的理由により就学困難と認める児童生徒の家庭へ必要な援助及び特別支援学級に在籍する児童生徒の家庭へ特殊事情を鑑み必要な援助を行う	決算額　1,292,296円 ○要保護準要保護児童生徒就学援助費 学用品・通学用品・校外活動費(14人) 新入学児童生徒学用品費(7人) 修学旅行費(5人) 体育実技用品費（3人） ○特別支援教育就学奨励費 学用品・通学用品・校外活動費(3人) 新入学児童生徒学用品費（1人） 修学旅行費(0人) 体育実技用品費（2人） 学校給食費（5人）	経済的理由により就学困難となる児童生徒の就学の機会を確保するため、学用品、校外活動費などの支援を行なっている。生活困窮者や特別支援学級就学児の家庭に対し援助を行うことで、教育機会の平等が確保されている。 今後も必要となる援助を行うため事業継続とする。
学-10	義務教育学校事業	小中一貫教育を推進する義務教育学校の設置に向けて、基本的な整備計画等を立案するための検討委員会及び先進地学校視察を行う。	決算額　25,650円 検討委員会　1回（10月23日） 先進地視察　1回（10月29日 中富良野町立なかふらの学園） 検討委員　8人	児童生徒の減少や学校施設の老朽化・統廃合を見据え、子どもの発達段階に応じた適切な指導・支援が行えるよう、義務教育9年間を見通した指導内容と指導システムなど学校・家庭・地域が連携し、子どもたちのためのより良い教育環境を創出するため、先進地である義務教育学校を視察し、義務教育学校の設置に向けた議論を進める必要があり、今後も事業継続とする。
学-11	学童保育センター運営事業	留守家庭児童及び遠距離通学の児童を対象に保護者の委任を受けて下校後の教育的措置として児童の生活指導を図る	決算額　7,176,314円 開設場所　上川小学校1階 開設日数　288日 登録児童数　33人（月平均） 指導員数　7人	保護者が共働きあるいはひとり親家庭の児童が多い状況から、児童の健全育成及び保護者が安心して働くためにも、必要度が極めて高い。 今後も事業継続とする。
学-12	小学校管理運営事業	小学校の教育環境の整備充実を図る	決算額　145,889,917円 ○学校運営及び施設管理の適正執行 児童数　83人 教職員数　15人 栄養教諭　1人 養護教諭・事務　2人 事務補・公務補　2人 ○教材・備品整備 配膳台、図書備品（150冊）等 ○施設整備 体育館照明LED化、エアコン整備等	学校教育目標である「たくましく創造的に生きぬく子」を育成するため、年度の重点目標を設定し、児童の心の育成、学力の習得・向上、健康と体力づくりを進めている。 児童の教育環境改善のため体育館照明LED化及び教室等へのエアコン整備を実施した。 小学校運営に必要な支援や教育にかかる教材、図書、機器等の経費であることから必要不可欠であり、良質な教育環境を維持するため事業継続とする。

(2)主要施策、事業等の実施状況及び評価

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
学-13	中学校管理運営事業	中学校の教育環境の整備充実を図る	決算額　141,773,933円 ○学校運営及び施設管理の適正執行 生徒数　47人 教職員数　13人 養護教諭・事務　2人 事務補・公務補　2人 ○教材・備品整備 抗菌ミラスポンジマット・マットトラック、図書備品（239冊）等 ○施設整備 エアコン整備等	学校教育目標である「自ら学び心豊かにたくましく生きる人」を育成するため、年度の重点目標を設定し、基礎的・基本的な学習内容・生活習慣の定着等を進めている。 生徒の教育環境改善のため教室等へのエアコン整備を実施した。 中学校の運営に必要な支援や教育にかかる教材、図書、機器等の経費であることから必要不可欠であり、良質な教育環境を維持するため事業継続とする。
学-14	特別支援教育推進事業	学校における日常生活の介助（食事・排泄・教室の移動）、LD(学習障害)の学習支援、ADHD(注意欠陥・多動性障害)等、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への学習活動をサポートし特別支援教育の充実を図る	決算額　12,816,191円 小学校　支援員　2人 臨時教諭　1人 中学校　臨時教諭　2人	増加傾向にある困り感のある児童生徒に対し、きめ細かい指導により基礎基本をしっかりと身につけることができており、支援員配置の効果が現れている。 特別支援教育を充実させるためにも事業継続とする。
学-15	中高一貫教育推進事業	教育環境の推進及び上川高等学校の存続を図る	決算額　1,482,064円 ＜実践研究の実施状況＞ ■「6年間のキャリア教育を通して、幅広い進路選択をすることができる力を身につける」生徒を育成するための中高の連携の在り方についての研究 ○生徒募集用ポスター・クリアファイル ○北大祭への参加（高校生のみ）、各種講演会 ＜各種検定奨励事業補助＞ 中学校　12人（延べ22人） 高　校　20人（延べ34人）	中高合同総合学習において、地域の自然環境や社会環境を学ぶことにより、知識・技能を活用して思考・判断する能力を育成することが必要である。中高6年間の継続的なプレゼンテーション学習などにより、発表を通して表現する能力の育成を図ってきた。 中高双方の教員が合同学習や乗り入れ授業において連携することにより、生徒の個々の能力を引き出すことができた。 更に魅力ある学校づくりを推進するため、事業継続とする。
学-16	上川高等学校存続対策事業	上川高等学校の存続を図るため入学者に対し入学準備金の助成、町外から通学する生徒の家庭に対しては通学費等の助成、上川中学校からの入学者に対し就学支援金の助成を行うことにより、保護者の負担軽減を図る	決算額　21,188,051円 通学費等補助 鉄　道　35人 自転車等　2人 バ　ス　5人 下　宿　0人 入学準備助成金　15人 上川高等学校海外研修事業　16人 上川高等学校就学支援事業補助金　16人 上川高等学校教育用タブレット整備事業　63人	上川中学校の卒業生が減少する中で、上川高校の存続を図るためには、町内外からの入学者を確保することが不可欠である。特色ある学校づくりの取組として通学費補助・入学準備助成金の支給のほか、令和4年度より希望する生徒の海外研修実施、タブレットの無償貸与等により、入学者の確保につながった。上川中学校を卒業後に上川高等学校へ進学する者へ就学支援金を支給することにより、生徒の確保が図られている。 今後の入学者確保に向けて、事業継続とする。

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
学-17	高校通学費等助成事業	公共交通機関を利用して町外の高等学校に通学する生徒の通学費の一部を助成し保護者の経済的負担軽減を図る	決算額　1,214,810円 1月あたりの通学定期の購入費用×1/3の助成（上限5,000円/月） 高校通学費等助成事業利用者　26人	物価高騰が続く中、公共交通機関の運賃も上昇しており、高校生をかかえる子育て世代の経済的負担軽減に寄与していることから事業継続とする。
学-18	給食センター運営事業	幼児・児童・生徒の心身の健全な発達のため栄養バランスのとれた食事の提供と食事の正しい理解と望ましい食習慣を養う	決算額　58,862,158円 調理稼働日数　206日 提供食数 認定こども園　8,710食（1日平均　47食） 小学校　20,415食（1日平均　107食） 中学校　12,169食（1日平均　65食） 高　校　6,720食（1日平均　42食） センター　1,425食（1日平均　9食） 計　49,438食（1日平均　270食） 1食当たりの給食費※令和6年4月改定 認定こども園　188円（牛乳なし）※平成26年6月から開始 小学生　281円 中学生　333円 高　校　292円（牛乳なし）※令和3年5月から開始 アレルギー代替食提供（平成30年8月から実施）	幼児・児童・生徒に必要な栄養バランスのとれた安心・安全な食事提供を行っている。また、上川町産の食材を提供し子供達からは好評となっているとともに、保護者からも野菜が充実し、おいしい給食と評価されている。 本年度より副食の充実化を図る取り組みを実施、給食メニューの改善に努めてきた。 高校給食提供（希望者対象）も5年目となり、生徒の7割の利用があり、給食提供は好評である。 心身の健全な発達のためにも、事業を継続する。
学-19	給食費無償化事業	給食費を補助することにより保護者の経済的負担を軽減し安心して子どもを生み育てやすい環境づくりに寄与する	決算額　7,371,184円 給食無償化事業（平成29年度から実施） 児童　84人 生徒　48人	保護者の経済的な負担を減らすことができ、子育て支援の充実の観点から、今後も事業継続とする。
社-1	社会教育施設整備事業	生涯学習活動の拠点となる施設の維持管理を図る	決算額　40,905,289円 かみんぐホール（公民館）の管理・運営 その他修繕等　1,729,750円 かみんぐホール利用状況　19,060人	かみんぐホールの利用者数については、前年度とほぼ同水準の19,060人となった（前年度19,576人）。引き続き多くの町民に利用されており、かみんぐホールは、多くの町民・サークル団体が利用する生涯教育活動の拠点であり、施設環境整備が不可欠のため事業継続とする。
社-2	生涯学習事業	町民の学習機会の充実と指導者や担い手の育成、様々な情報の提供と参加奨励を図る	決算額　57,907円 各種計画に基づいた事業報告 生涯学習に関する情報発信 かみんぐニュース、町ＨＰ等で適宜広報 生涯学習指導者銀行（地域サポートクラブ） 指導者の確保（R7年度22人）、 中学校空手授業(全4回　実施日:9/22、9/25、10/7、10/9　指導者3人) 小学校スキー授業（全2回　実施日:1/23、1/30　指導者3人） 中学校スキー授業（全4回　実施日:1/16、1/19、1/22、1/27　指導者3人）	住民の多様な学習要望に応え、学習情報の提供、指導者派遣等を開催している。 本年度も社会教育推進目標を設定した第10次上川町社会教育中期振興計画における生涯学習の推進を実践している。指導者銀行は、登録者数が22人となり数年人数が変わっていないことから、今後においては指導者銀行の体制の見直しや指導者の確保に努めていきたい。 生涯学習の基本である「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」が学ぶことができる様々な情報の提供と参加推奨を図ることから、今後も事業継続とする。

(2)主要施策、事業等の実施状況及び評価

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
社-3	幼児・少年教育事業	子ども達が自ら社会性・独創性を養い、心身ともに豊かな人間形成が図られるよう、環境基盤等の強化に努める	決算額　10,436,912円 自然体験教室(8/5 12人) 生涯学習アドバイザーを中心とした学習相談等の実施 子ども会育成会組織の機能充実 オープン勉強会①(6/30 48人) オープン勉強会②(9/1 65人) オープン勉強会③(12/18 70人) 異世代間交流事業 先人の知恵、生活を学び、教育力向上のための世代間 ふれあい促進事業の開催(3/14 7人) 学習機会の充実 児童生徒主張のつどい(12/6 発表者18人) 新春書き初め大会(1/10 19人) ジャンプアップひろば・夏(7/24～25 延96人)・冬(12/24～25 延100人) 上川町地域未来塾 中学生・夏(7/24～25・28 延21人)・冬(12/24～26 延26人) 上川町地域未来塾 高校生①(5/28～30 延27人) 上川町地域未来塾 高校生②(9/1～3 延58人)※ミライキャンパスとして実施 上川町地域未来塾 高校生③(11/13～141・17 延23人) 上川町地域未来塾 高校生④(2/12～13・16 延14人) Well-being事業 マイルドフルラーニング(4月～6月 70人) オンライン国際交流(9月～12月 上川高校1年生18人、2年生15人、3年生20人) シビックプライド醸成事業(5月～3月 上川高校2年生15人対象) ふるさと納税返礼品開発(5月～3月上川高校3年生20人対象) デジタルスクール(9月～2月 延べ152人) 推しごと事業 地域クエスト(探究学習)(9月～3月 上川中2年生18人) もくもくクエスト(7/30・10/18 延べ26人) ミライエンジン(高校生版)(7/26～29 8人) ミライエンジン(中学生版)(9/13～15 11人) ミライキャンパス(9/1～3 延べ58人)	乳幼児期については、本年度より認定子ども園に設置されたどんぐりっ子(子育て支援センター)に集約して活動を実施している。 少年期では、体験活動などにより健やかな心身が養われている。中学生・高校生対象の上川町地域未来塾では大学生による学習指導により学習機会の寄与を図っている。 令和7年度も引き続き、『風土水×地方×都市が育むWell-beingなライフスタイル推進プロジェクト～未来の上川人育成推進事業～』を教育委員会で実施した。新たに「地域クエスト」などの探究学習やオンライン国際交流を展開し、上川町が目指す個人と社会全体のWell-being(幸福・豊かさ)の実現を念頭に、幼少期から成人期までの連続した学びを実践することで、郷土愛をもつ人材を育てることを目的として実施したことに伴い、多様な学習機会を提供している。 次代を担う乳幼児少年の健全育成のため、一層の幼稚園・保育所、学校、関係機関との連携を深めるため事業継続とする。
社-4	成人教育事業	成人へ様々な情報・交流・研修の場を提供し、個々の活動の活性化を図る	決算額　395,458円 学習機会の充実、情報の提供 アイヌ刺繍講座などの教養講座の開催 成人(30歳未満)対象事業の開催 はじめてのカクテル講座(11/14 14人) はたちのつどいの開催 (1/11 22人)	成人の学習ニーズに応じた多様な学習機会を提供することにより、各団体、個人の自己研鑽が図られている。 はたちのつどいや教養講座等の開催により、町民の主体性や参画を重視した事業を実践したことに伴い多くの町民が集まる機会を創出することができた。 今後、学習機会においては社会教育中期計画で浮き彫りとなった地域の繋がりを意識した多様な事業展開を図っていく。
社-5	高齢者教育事業	次世代に高齢者の持つ豊富な経験と知識を継承するとともに、自学・自修の機会の提供を図り社会参加を促す	決算額　15,488円 児童生徒との交流 白寿大学合唱クラブにより中学校学校祭での発表(9/12 31人) 関係機関との交流 よもやま講座②(7/30 総数 82名 白寿大学47名 当麻18名、東神楽17名) 東神楽町あやめ学園「一笑一若寄席」(10/9 41名) 当麻町いちい学園「軽スポーツをしよう」(10/15 28名) 学習領域の拡大 白寿大学の開設と月1回の授業開催(全16回) 世代間交流事業 上川小学校で異学年児童との交流集会(10/28 16人) 高齢者人材確保、ボランティア活動の推進 大雪森のガーデン清掃活動(7/7日 19人・7/14 16人)	本年度も白寿大学の授業を中心に一生学び続けることのできる生涯学習の場として、高齢者が生きがいのもてる学習や事業の提供が図られている。 参加者自らが率先して学習プログラムの立案、運営を行い効果的な事業展開が図られている。さらに他町との交流(東神楽町や当麻町との交流事業など)も積極的に実施し学習と交流を深めている。 高齢期を健康で過ごすために事業継続とする。

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
社-6	公民館活動事業	町民の多様化する学習ニーズに対応するため、各種講座・教室等の開催や学習情報の提供を行う	決算額　326,808円 講座等の開催 自然観察講座(3回 34人)、登山会(1回 17人)、学校開放事業(70回 429人) 教養・趣味講座(8/26日～3/7 12講座 延408人) 体育・レクリエーション事業 チビッ子チャレンジランキング(6/28 40人)、全町ラジオ体操のつどい (夏休み7/24～8/21　44人※カード回収　延べ958人)、 かみかわっ子祭り(3/20　55人)	本年度は、講座の開催回数は前年度とほぼ同数(12講座)であったが、教養・趣味講座の参加者が前年度よりも大きく増えて(延305人→延408人)、生涯学習の推進が図られている。 地域の学習や文化の推進に寄与し、「あつまる」、「まなぶ」、「つなぐ」の基本理念の推進が図られる必要があることから事業継続とする。
社-7	芸術・文化事業	町民に優れた芸術に触れる機会を提供するとともに、町内で文化活動をされている個人・団体の支援を図る	決算額　3,091,931円 文化鑑賞事業 【全町民】文化鑑賞事業「K音フレンドシップLive」(5/11　143人) 【幼児・低学年】文化鑑賞事業「オズの魔法使い」(9/5 83人) 【全町民】文化鑑賞事業「陸上自衛隊北部航空音楽隊上川町演奏会」(11/3 269人) 【全町民】文化鑑賞事業「桂米朝一門落語会」(12/14 95人) 【全町民】文化講演事業「コメディエンヌプラネット」(12/21 84人) 文化講演事業 【全町民】文化講演事業「アンヌ遙香＆明石英一郎　W講演」(11/16 103人) 町民文化祭 総合舞台発表、作品展示、産業展示販売実施(10/25～26～11/3 延1,297人) 子ども劇場活動支援	質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を創出することにより、想像力や思考力、コミュニケーション能力を養っている。特に音楽系の文化鑑賞事業(K音フレンドシップLiveや音楽隊演奏会など)は、多くの方のニーズがあることから、今後においても積極的に実施していきたい。 また、町民総合文化祭は、参加者が延1,297人となり、多くの方に向けて日頃の文化活動の成果を発表することができた。一方で、舞台発表の出演者や展示の出展者が年々減少していることから、今後については、団体・サークルの育成や個人でも参加しやすいような枠組みも検討していきたい。文化協会が解散した事を受け発足した公民館登録団体は、文化団体の育成や文化継承を引き続き図っていく。 各種文化活動の発表の場を提供することで、サークル活動の充実と地域文化の推進が図られることから事業継続とする。
社-8	文化財保護・活用事業	郷土の歴史に関する資料の収集保存・保護を推進し、町の歴史的文化財継承を図る	決算額　7,435,889円 郷土資料館の管理・運営(休館日の変更:日曜日・月曜日休館) 利用人数　336人 郷土資料収集員 郷土資料収集員(5人)による会議の開催(5/20) 日常の郷土資料収集 天然記念物の保護保全 天然記念物現状変更申請事務 アイヌ文化保存継承事業	郷土理解・学習を深められる施設(ふる里たいせつ館)となるよう、資料の展示・整理を行っている。本年度の入館者(336人)は前年度(421人)から減少しているため、より多くの方に来館して頂けるような展示の工夫を検討していきたい。 開拓当時の生活必需品や農機具・林業機材の収蔵・展示を行い、先人の偉業や開拓の歴史を町民の財産として後世へ残していくことは極めて重要であることから事業継続とする。
社-9	図書室管理事業	町民の多様な要求と学習に応じた図書の整備及び読書普及活動の拡充を図る	決算額　11,608,940円 読書普及事業 上川小学校、図書室での読み聞かせ、上川小学校における 校内放送による読み聞かせ、学童保育の読み聞かせ 層雲峡地区・たいせつの絆(中央老人クラブ例会)への移動図書 青空図書館の開催、学校図書室整理補助 蔵書数 図書　47,273冊、雑誌　835冊、AV 1,221点　合計　49,329点 年間利用者数　3,458人 貸出数　12,629点　人口1人当たり4.23点(うち図書:3.74冊) 第3次上川町子どもの読書活動推進計画 令和5年度から向こう5カ年計画	読書活動の推進が図られるよう期間ごとの展示や読み聞かせ等を行っている。 読書ボランティアの創意工夫のもと行っている絵本の読み聞かせ等により、子どもの読書活動の推進が図られている。また、公民館講座として大人の絵本講座を開催し、絵本に対する興味・関心を高めることも実践している。 本年度は子どもの読書活動推進のため第3次上川町子どもの読書活動推進計画を推進しているが、利用者は前年度から減少(3,538人→3,458人)しているため、利用促進に向けたアプローチが必要である。 町民のニーズに応えた図書整備や更なる読書普及活動等の推進を図り、身近な生涯学習の拠点として事業継続とする。

(2)主要施策、事業等の実施状況及び評価

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
社-10	スポーツ・レクリエーション事業	各種スポーツ・レクリエーション事業及びスポーツ教室等を開催し、スポーツ活動の普及及び身近にスポーツを親しむ機会と交流の場を設けることにより町民の健康増進を図る	決算額　5,171,291円 【チビッ子教室関係】 剣道教室中止、陸上教室～基礎編～10回(35人)、野球教室9回(9人)、 フットサル教室実施なし、陸上教室～応用編～実施なし 基礎体力養成教室18回(41人)、スキー教室10回(19人)、スケート教室10回(17人)、 バレーボール教室実施なし、北海道日本ハムファイターズ少年野球教室1回(28人) 【成人教室】 エクササイズ教室実施なし、トレーニングマシン講習会61回(61人) 【大会・レクリエーション関係・その他後援事業】 春季ソフトミニバレーボールリーグ戦実施なし 、朝野球リーグ戦3チーム54人、 全町パークゴルフ大会18チーム70人、ナイターソフトボール大会中止(申込2チーム)、 レッツウォーキング14人、新体力テスト10人、ベースボールキャンプin上川町29人、 レクボッチャ選手権大会(親子ニュースポーツ大会)18チーム54人 【研修事業】 スポーツ研修事業27人 【その他健康増進事業】 運動・スポーツ習慣化促進事業 新規登録15人 全体159人 延313人(自主延1,618人) インボディ測定登録68人 全体267人 測定延387人、きてみんかエクササイズ教室7回165人	心身ともに健康であり続けるために、住民のライフステージに応じて、気軽にスポーツやレクリエーションの楽しさを味わえるような活動機会が求められている。特に、コロナ禍以降、ますます健康に対する意識は高まってきており、子どもから高齢者まで多様なニーズに合わせた事業展開を行ってきている。 令和4年度よりスタートした運動・スポーツ習慣化促進事業においては、これまで運動に参加されていなかった方の掘り起こしに繋がり、年々総合体育館の利用率は上昇しており、町民の健康増進に大きく寄与した。 また、各種スポーツ教室をはじめとした子ども対象の事業についても充実を図り、スポーツ選択の幅を広げ、少年団への加入促進などへも繋がっている。 そして、少年団活動をはじめとしたスポーツ活動のさらなる充実を図るためには、専門的な知識や技術を有した指導者の充実が必要不可欠であり、スポーツ研修事業の実施を通して、指導者育成を図ってきている。 スポーツを通じ交流を深めることは、個々の体力向上・健康増進につながることはもちろん、町民相互の新たな連帯、地域の活力向上にも繋がることから重要であり、今後はさらに事業のバリエーションを増やせるよう検討しながら事業を継続していく。
社-11	体育団体の育成と連携事業	体育協会、チビッ子スポーツ少年団等との連携や、運営に対する助成を行い、各体育団体の育成を図る	決算額　8,797,347円 体育協会　9団体　253人 スポーツ少年団　3団体　21人 チビッ子スポーツ少年団　5団体　39人 女子スキージャンプワールドカップ応援団派遣18人	当町のスポーツ振興のため団体育成は非常に重要であり、スポーツ少年団や体育協会等と連携し、継続的な団体育成を図ってきている。 スポーツ少年団育成を通して、子どもたちの体力や技術力の向上及び心身の健全な育成が図られ、体育協会をとおした体育団体への助成により、各種団体の町民のスポーツ参加の機会が図られている。 しかし、一方で人口減少や指導者不足などを理由に、それぞれの加入団体数は減少傾向にあり、加えて部活動の地域展開推進により、中学校部活動自体のあり方が問われており、地域での指導者確保やスポーツ選択ができる環境づくりを進めていく必要がある。 内容等を審査しながら今後も事業継続とする。

No.	事務事業名	目的	実績	点検・評価と方向性
社-12	体育施設整備事業	スポーツ施設の適正な維持管理を行い、町民の健康増進を図る	決算額　39,398,886円 （内訳） 施設管理経費 保健体育施設管理経費 総合体育館維持管理経費 栄町パークゴルフ場維持管理経費 町営球場維持管理経費 水泳プール維持管理経費 中山スキー場維持管理経費 スケートリンク整備交付金 施設利用状況　（前年利用者：前年対比） 総合グラウンド　4,438人（4,478人：99%） 総合体育館　20,948人（19,247人：109%） 内トレーニングマシン　4,744人（4,206人：113%） 栄町パークゴルフ場　3,240人（3,440人：94%） 町営球場　1,061人（ 815人：130%） 水泳プール　1,636人（1,489人：110%） 中山スキー場　981人（1,113人：88%）	生涯スポーツの推進にあたり、町民の健康増進を図るため、町民が快適に利用できるよう、各スポーツ施設の良好な維持管理に努めている。 施設の利用状況については、総合体育館や町営球場など健康需要の向上に合わせて増加傾向にあるが、一方で人口減少や施設の老朽化もあり、横ばいまたは減少傾向にある施設も一部ある。 計画的な施設管理を行い、建替えや修繕など、さらなる整備が必要となってきている。 コロナ禍以降、健康に対する需要が高まり、ますます運動ニーズが高まってきていることから、今後も多様な利用者ニーズに合った施設整備が必要であると同時に、老朽化している施設の計画的な整備を行っていくため事業継続とする。
社-13	ミラノ・コルティナオリンピック出場選手応援・応援団派遣事業	上川町出身選手が郷土・上川町の誇りを高め、活躍出来るよう応援する事を目的に「応援する会」を設置、応援団派遣の交付金の申請書の目的を追記	決算額7,701,945円 応援団派遣7人（内補助対象5人）、パブリックビューイング（2月8日、11日、18日）延べ210人 （ノーマルヒル：高梨沙羅13位 勢藤優花14位、ラージヒル：高梨沙羅16位 勢藤優花15位、男女混合：高梨沙羅3位）	上川町民の代表としてミラノ・コルティナオリンピック出場選手の髙梨沙羅選手、勢藤優花選手を現地で応援すべく応援団の派遣や、地元でのパブリックビューイングに多くの町民が訪れ声援を送っていた。結果、髙梨沙羅選手が混合団体において銅メダルを獲得し、勢藤優花選手もノーマルヒル・ラージヒルに出場し好成績を残した。
社-14	上川町学園構想策定事業	幼児から高校までをつなぐ一体的な教育ビジョンを策定し、地域と連携して子どもたちが「ここで育ってよかった」と感じられる環境をつくる。多様な学びと挑戦の場を提供し、地域全体で子どもの成長を支える持続可能な教育体制の構築を図る。	決算額　22,556,939円 上川町学園構想策定業務（オープン勉強会　全3回開催・冊子作成・配布） 上川町学園構想フェスティバル（2/1　100人）	幼児期から高校まで一貫した教育ビジョンの策定と普及状況を把握するために令和7年度は、オープン勉強会（全3回）や上川町学園構想フェスティバル（100人参加）を開催しました。オープン勉強会は、教育に関する学びを深める機会と併せて、地域や保護者、教職員とともに意見を出し合い、多様な視点で今後の上川町学園構想をかたちづくる基盤を築きました。こうした対話の積み重ねを受け、次年度は学校・家庭・地域・行政が連携して子どもを支える体制の充実や、学びや挑戦の場のさらなる拡充、放課後や地域人材を活用した子どもたちの主体的な活動の広がりについて重点を置き協議します。教育資源や人材の確保、予算の効率的な活用といった持続可能な教育環境の整備状況についても検討し、上川町学園構想の推進を図るため事業継続とする。

5、学識経験者の意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会が行った点検及び評価の結果に対する意見をいただくことにいたしました。
このことにより、点検及び評価の客観性を確保するとともに、いただいた意見等については今後の施策、事業等の展開に活用していきます。
次の二人の方からご意見をいただきました。

神 田　宥 冶　氏　　（上川町社会教育委員、上川町公民館運営審議会委員）
渡辺　志穂子　氏　　（上川町社会教育委員、上川町公民館運営審議会委員）

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び上川町教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の委員が教育に関する様々な議題について審議し、教育委員会としての意思決定を行っています。
また、教育現場の状況に応じた議論を行うため、年2回の学校訪問、運動会や学芸会、公民館・社会教育事業などに出席し、教育現場の意見や要望に耳を傾けたり、児童生徒等の活動の様子を視察しています。加えて全道や管内の研修会にも参加し、教育の現状と今後の在り方などを学んできています。
以上のことから、教育委員会の活動は適切に進められているものと判断いたします。

(2) 学校教育

義務教育では、良質な教育環境を維持するため、教材や図書、機器の確保に加え教室等へのエアコン設置などの施設整備が適切に行われ、教職員の資質能力の向上に向けた研修や研究が進められています。学力向上については、チーム・ティーチングを実施し、きめ細かな授業が行われているほか、町独自の臨時教諭や支援員が配置されています。さらに朝学習、読書活動、放課後学習などを実施し、学習の定着と学力向上に向けた対策が図られています。様々な取り組みから、一人ひとりの能力や個性を伸ばす指導が展開されており評価できます。
外国語教育や国際理解教育では、2人のALT（外国語指導助手）を配置し、幼児から中学生までを対象とした英語教育が進められています。また、ロッキー・マウンテン・ハウス町へ中学生が訪問し、交流するなどの経験をとおし、国際社会へ対応できる人材育成が図られており評価できます。
部活動の推進では、地域人材を活用した一部部活動の地域展開を推進し、心身ともに健康な生徒の育成が図られており評価できます。
児童生徒の減少や学校施設の老朽化・統廃合を見据え、子どもの発達段階に応じた適切な指導・支援が行えるよう義務教育学校の設置に向けた議論を進めていることも評価できます。

高校教育では、これまでの上川高校へ通う生徒に対する通学費等の補助に加え、町外の高校等へ通う生徒への通学費等助成事業のほか、上川高等学校入学準備助成金事業を実施し、保護者の経済的負担を軽減しています。特に、上川中学校から上川高校へ進学する生徒への就学支援事業は、地域の子どもたちが地元で学び続けるための重要なサポートです。また、タブレットの無償貸与や希望する1年生を対象とした海外研修（事前・事後学習を含む）など、特色ある教育が展開されています。中高一貫教育推進事業においては、漢字・英語・数学などの各種検定への補助を行い、保護者の負担を軽減しつつ、生徒の学力向上を支援しています。町としても、魅力ある学校づくりを目指し、上川高等学校魅力向上推進協議会とともに、今後の高校存続に向け、一層の対策が図られることが期待されます。

学校給食では、栄養士や調理員が衛生管理を徹底し、創意工夫を凝らした献立で、幼児や児童、生徒の心身の健全な発達を支える安全で安心な学校給食を提供しています。また、小中学校の児童・生徒の給食費が完全無償化され、上川高校においては、希望者に有料で給食の提供を行うなど、保護者の経済的な負担軽減が図られており評価できます。

（3） 社会教育

令和4年度に策定された「第10次上川町社会教育中期振興計画」に基づき、社会教育環境の整備が進められています。また、令和6年度から、子どもたちが「ここで育ってよかった」と感じられる学校・家庭・地域・行政が一つとなった教育計画の策定が進められ、地域や保護者、教職員の参加のもとで勉強会や学園構想フェスティバルが開催され議論を深めた結果「上川町学園構想」が策定され、目指す姿を「WAGAMA人」とし幼児期から高校まで一貫した新たな教育ビジョンがつくられたことは評価できます。

令和6年度からWell-being事業や推しごと事業に取り組まれ、郷土愛を持つ人材育成の一助となっています。自然観察や教養・趣味講座など、多岐にわたる公民館事業には、多くの町民が参加されています。また、児童・生徒のつどいやジャンプアップひろば、地域未来塾も継続して実施されており、学習機会の提供だけでなく、大学生との交流の場も生まれています。

文化鑑賞事業では、特に音楽関連の催しが好評で、音楽に対する町民の関心が非常に高く、今後も積極的な参加が期待されます。一方で、町民文化祭は参加者が増え賑わっているものの、舞台発表の出演者減少が大きな課題となっています。

文化財保護・活用事業では、郷土の歴史を学べる上川町郷土資料館「ふる里たいせつ館」は、先人の苦労を伝える学習施設として開放されていますが、町民のさらなる積極的な利用が期待されます。

図書事業では、町民のニーズに応じた図書の充実に加え、読書ボランティアによる読み聞かせ活動が継続的に行われています。特に、絵本、大型絵本、紙芝居などを活用した青空図書館や層雲峡地区への移動図書、かみんぐホール図書室や学童保育センターでの読み聞かせなどを行っているほか、上川小学校放送室での朗読など、子どもたちへの普及活動に力を注いでいることは評価できます。

社会体育では、スポーツの推進・健康増進を図るため、各施設を運営されています。特に令和4年度から行っている運動・スポーツ習慣化促進事業においては、町民の関心は高く参加者が増加し成果を上げています。栄町パークゴルフ場においても町民に大いに利用され健康増進を図っており、町民が身近で気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができるように努めております。

また、北海道日本ハムファイターズ少年野球教室やレッツウォーキングなども昨年に続き実施され、従来どおりの活動が展開されてきています。社会体育事業は、町民の参画が広まり、健康増進の充実が図られてきています。更なる活動の活性化と施設の充実が望まれます。

（4） 総合評価

令和7年度における委員会活動状況及び学校教育、社会教育の施策・事務事業等が適正に点検評価されております。

生涯にわたる人間性豊かな創造力に富んだ人づくりを目指し、住民の学習意欲の向上を図るべく、学校・家庭・地域、さらには福祉、産業など多様な分野が有機的に連携し、生涯学習体制の確立するよう取り組んでいただきたいと考えます。

また、学校・家庭・地域が連携した事業展開や生活習慣の改善は、子どもたちの学力向上だけでなく、いじめや自殺問題など多様な課題に対応するためにも重要です。そのため、柔軟かつ適切な判断に基づいた教育の推進が求められています。そのため、学校と教育委員会が一丸となり、実情把握に努めるなど万全な対応と「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな身体」の調和のとれた学校教育活動の推進を図っていただきたいと考えます。

上川町学園構想は幼児期から高校まで一貫した教育を進めるものであり、多様な学びと挑戦の場を提供し、地域全体で子どもの成長を支える持続可能な教育体制の構築を図っていただきたいと考えます。

各種事業では、多くの行事が催され、多くの住民が参加するなど、前向きな展開が見られます。上川町が直面する少子高齢化や急激な人口減少による指導者不足といった課題がある中、生涯学習の原点に立ち返り、町民のニーズを把握し、地域住民に即した学習機会の提供や効果的な情報発信を行うことが期待されます。

令和8年9月9日

神　田　宥　冶

渡　辺　志穂子